

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	長野県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	青木小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	1	2	1	11	16
児童数	50	44	49	39	34	47	1	264	

研究の概要

1. 研究主題

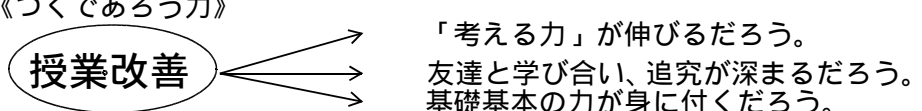
- ・ 主題(テーマ)  
自ら気づき、発見し、こだわりを持って取り組む「分かる授業」を作るための個に応じた指導はどうあったらよいか。～指導と評価の在り方
- ・ テーマ設定の趣旨  
本校は、これまで、算数における「学力向上」の視点から、学習形態や学習集団編成の工夫と具体的な課題解決に向けた支援の在り方を中心に研究を進めてきた。その結果、個々の実態に応じてつまずきや追究方法を見届ける大切さや、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図ることの重要性が明確になった。  
本年度改めて子どもたちの実態を見ると、学習活動の定着度が高まり、学習意欲も増している姿も見られる一方、学習に対して自分なりの「こだわり」を持つことが不得意な子どもたちや、自ら課題を持ち、「考えること」が深まらない子どもたち、発展的に考える場面で主体的な取り組みができにくい子どもたちの姿も見えてきた。  
そこで、本年度はこれまでの教師主導の授業の在り方を見直し、子ども主体の授業に変えていく授業改善を研究の出発点とし、「分かった・できた」が実感できる授業の構築を目指し、本テーマを設定した。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 4年生 算数・国語  
児童数39人の単級であり、学習内容の定着状況にも個人差が見られるので、少人数での学習指導が望ましいと思われるため。
- ・ 5年生 算数・国語  
児童数34人の単級であり、学習内容の理解の状況に差が出やすい学年であるので、少人数での学習指導が望ましいと思われるため。
- ・ 2年生 算数  
昨年度の学力定着検査から、定着度の低い「図形」の領域において、全学年にわたる効果的な指導の在り方に係わる研究に取り組むため。

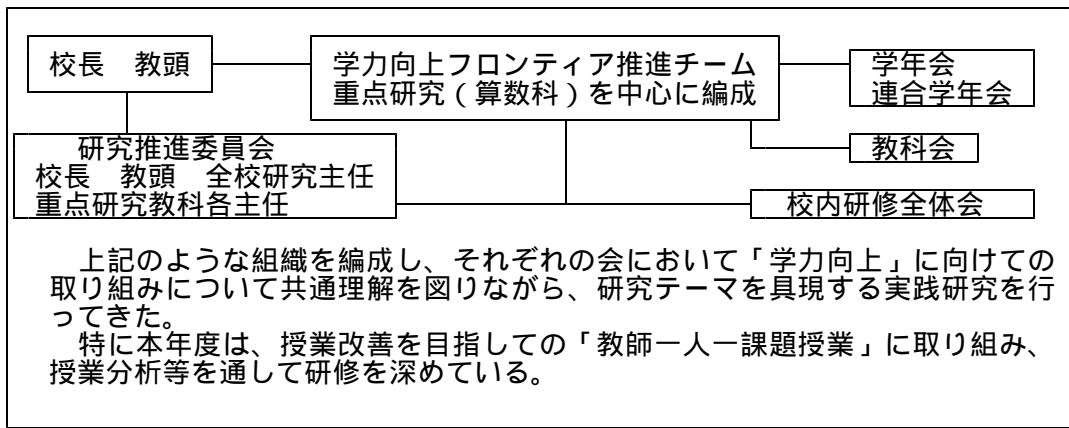
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 自ら気づき、発見し、こだわりを持って取り組む「分かる授業」を作るための個に応じた指導はどうあったらよいか。～指導と評価の在り方 研究の見通し(仮説) 「教師主導の授業から子ども主体の授業への授業改善の取り組み」 子ども主体の授業をすることこそが「考える力」の育成につながり、更には「学力の定着」に結び付くのではない。 《つくであろう力》</p> 
--------	--

	<p>研究の内容・方法</p> <p>1 個に応じた指導に向けて</p> <p>(1) 習熟の程度に応じた学習集団の編成と指導計画の工夫</p> <p>(2) 少人数指導とTT指導を組み合わせた指導体制の工夫</p> <p>(3) 個人追究の深まりを目指す教材開発</p> <p>(4) 指導と評価の一体化(具体的な評価場面・方法・規準の吟味)</p> <p>2 「考える力」を伸ばすための指導に向けて</p> <p>(1) 教師主導の授業から子ども主体の授業への授業改善</p> <p>(2) 既習事項を活用し、「こだわり」の持てる学習展開の工夫</p> <p>(3) 自分の考えをより深めていくための友達との学び合いの場の設定(共同追究の場の確保)</p> <p>3 基礎基本の徹底</p> <p>(1) 「みかえりタイム」(全校ドリルの時間・月曜日に30分)の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の実態に合わせた教材の作成</li> <li>・ 「取り組みカード」への記録記入による児童個々の自己評価</li> </ul>
--	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>自ら気づき、発見し、こだわりを持って取り組む「分かる授業」を作るための個に応じた指導はどうあったらよいか(仮テーマ)。</p> <p>研究の見通し</p> <p>「教師主導の授業から子ども主体の授業への授業改善の取り組み」子ども主体の授業をすることこそが「考える力」の育成につながり、更には「学力の定着」に結び付くのではないか。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>1 個に応じた指導に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力定着度検査のより細かな分析と個々の課題の明確な把握</li> <li>・ 習熟度別コース編成における児童の自己評価と教師の評価との有効な関連</li> </ul> <p>2 「考える力」を伸ばすための指導に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少人数学習における、自分の考えをより深めるための学び合いの場の設定</li> </ul> <p>3 基礎・基本の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全教育活動における「学力向上」の視点の位置付け</li> </ul>
--------	---

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1 研究成果

- (1) 個に応じた指導に向けて  
4年と5年では、算数・国語において少人数学習指導を実施した。どちらも20人以下の学習集団となるため、学習への集中度が増し、授業の楽しさを実感している子どもたちの姿が見られる。子どもたちへのアンケートの中にも、「授業中、友達の意見がよく分かるようになった」「みんなが落ち着いて学習できるようになった」といった感想が出ている。  
従来のような学習集団の中では、なかなか自分を表現しようとしなかった子どもたちも、自分から質問したり発言したりする姿が見られるようになってきた。「分からないこと」をそのままにしない傾向が見えてきている。  
子どもたち個々の定着状況がとらえやすくなったため、つまずきへの対応も早目にできるようになり、時間内での定着が可能になってきている。  
算数の場合、単元により習熟度別コースを編成し、学習展開等を工夫しながら指導したが、子どもたちの理解の状況に応じた指導が可能になり、学習内容の定着も深まっている。
- (2) 「考える力」を伸ばすための指導に向けて  
「子ども主体の授業」を目指し、教師一人一人が授業記録を基にした授業の実際の見返し(テープ起こし)に取り組んだ。その結果を分析することにより、発言からも授業における教師の課題が明確になってきた。  
授業の中で「こだわりを持ち」「個人追究を深める」ための手立てとして、どのような教材が望ましいか考えてみた。  
【2学年「三角形と四角形」】  
教師自作のジオボードによる操作活動具体的操作活動を伴うジオボードの使用により、紙面上のみの活動にならず、個々が図形を作成し、多種多様な図形を見付けだすことができた。自分で考え、作り出した図形を用いることにより、三角形や四角形の弁別が意欲的にできた。  
自分の考えをより深めていくために、授業における友達との学び合いの場として、共同追究の場を設定した。友達の考えを聞くことにより、自分の考えを再度見返すことにもなり、理解にも深まりがみられた。
- (3) 基礎・基本の徹底  
全校ドリルとして取り組んでいる「みかえりタイム」では、児童の実態に合わせた教材を作成したり、「取り組みカード」へ記録を記入し自己評価をしたりすることにより、子どもたちの集中力と課題に向かう意欲が向上してきている。  
「ぼくは引き算が得意ではない」、自分自身の学力に対する実態把握  
「全部できて満足」「残りは家でやりたい」意欲の喚起・継続

### 2 今後の課題

- (1) 本年度は算数を中心に、「学力向上」に向けた具体的な取り組みを進めてきたが、今後は更に、学校の全教育活動の中にどのように位置付けるかを検討し、様々な領域の中での確かな実施の方向を考えていきたい。
- (2) 学年末に実施する定着度検査(CRT)結果の分析を、数値的なことも含めて確実に行って、個々の課題を明確にし、個に応じた指導がよりきめ細かなものとなるようにする。
- (3) 習熟度別コースの編成に当たっては、コース分けの根拠がより明確になるように、教師の評価と児童の自己評価との関連を探っていく。
- (4) 習熟度別コース学習を行っても、最終的につきたい力と評価規準は同じであるため、コースの特性に合った評価場面の設定と評価方法が必要となるので、この点についての研究を更に深めたい。
- (5) 少人数学習においても、自分の考えをより深めていくための友達との学び合いの場を設定することを大事に考え、「考える力を伸ばす」ための指導の在り方を更に研究していきたい。

## 学力等把握のための学校としての取組

### 学力定着度検査の実施

国語・算数の二教科について、学年末に実施する（2年～6年）。個人の学力の蓄積・傾向を分析するとともに、学年・学校の学力の変化や傾向も分析する。

### 観察による評価の実施（日常的評価）

評価規準による評価の観点を明示した「座席表」を用い、授業における日常的評価を実施している。また、授業以外の教育的活動では、児童の表情や行動・発言等を観察することにより、見えない学力を把握する。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

P T A 総会、参観日等において、地域・保護者に向けて、本事業を通しての学力向上への取り組みの説明。

地区発表会（6月）において、研究の方向や取組の計画を発表。

- ~~~~~
- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善にかかわる加配の有無】       有                       無